

子供たちに伝えたい日本の良さ

今月のテーマ ～ 伝統の技術・老舗の力 ～

日本には、創業から100年を超える国内企業が3万社以上（東京商工リサーチがまとめた全国「老舗企業」調査による）あります。一つの国に100年以上続く企業がこれほど存在していることは、世界的に類を見ない状況です。創業から長く続く「老舗」と言われる企業は、どのようにして長期間に渡り、事業を展開してこられたのでしょうか。

宮大工の技 ～世界最古の企業～

国内で最も古いのは、「金剛組」という神社やお寺の建築を行う企業で、創業から1400年以上になり、世界最古の企業とも言われています。金剛組が事業をはじめたのは、飛鳥時代の578年（敏達天皇7年）で、聖徳太子にゆかりのある四天王寺（大阪市天王寺区）の建立にも関わっています。



【0.003ミリのカンナ屑】

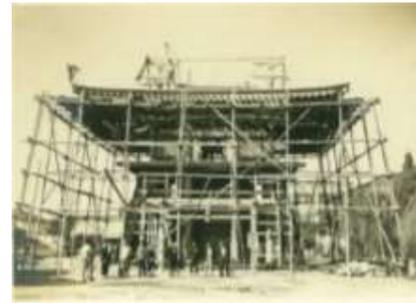
金剛組には、社寺を専門に手掛ける専属の宮大工が約100人いて、日本全国の社寺の建築、再建、修復等を行っています。1400年以上にも渡って事業を展開することができるのは、金剛組が高い技術力を有してきたからです。金剛組の宮大工は、社寺の設計図を基に、実物大のきれいな曲線を床に描き、それに合わせて材木を加工します。古くから伝わる木組みという技法を使って、極力金物を使わず社寺を造ります。材木を削る鉋（かんな）がけの技術は、コピー用紙の30分の1の厚さである、0.003ミリのカンナ屑を出すこともできます。



【五重塔工事現場】
（平成22年）

宮大工は、千年後を想定して、今自分が持っている技術、技法を惜しげもなく使い、後世の匠に技を伝え、また、自身も先人や古匠の技を習い見て、技術の向上に向けて切磋琢磨を一日たりとも怠らず、丁寧な仕事を積み重ねています。

宮大工の高い技術力が無ければ、日本の伝統工法を後世に残すことはできず、現在、世界に誇る神社仏閣や歴史的木造建造物を拝観できるのは、古い時代の宮大工が「匠の技」を伝承してきたからといえます。



【四天王寺・黄鐘楼 建設中】
（昭和24年頃）

1秒を刻む ～世界のセイコーへ～

SEIKO（セイコーホールディングス株式会社）は、明治14年（1881年）に創業しました。その後、明治25年（1892年）に掛時計の生産をはじめました。大正2年（1913年）に国産初の腕時計を発売し、昭和35年（1960年）には、当時世界最高水準の精度をもつ腕時計グランドセイコーを発売しました。

昭和39年（1964年）、アジア初のオリンピックとして開催した東京オリンピックでは、公式計時を担当（以降、札幌、バルセロナ、リレハンメル、長野及びソルトレークの5大会でも担当）し、昭和44年（1969年）には、「世界初のクォーツ式腕時計」を発売します。当時、各社が時計の精度を高めるためにクォーツ式腕時計の開発に取り組んでいましたが、後に世界中の時計会社はセイコーが独自開発した画期的なクォーツ技術を採用し、セイコーの技術の卓越性と先見性が世界で証明されました。



【初代グランドセイコー】



【クォーツ アストロン】

クォーツ式腕時計は、このセイコー方式に改良が加えられるものの、基本的な仕組みや構造は、現在まで変わっていません。

その後も様々な開発が行われ、最近では、平成24年（2012年）に世界初のGPSソーラーウォッチ、平成26年（2014年）に世界初の家庭向け衛星電波クロックを発売するなど、より機能的な時計の開発が続けられています。

スポーツの分野においても、IAAF World Championships in Athletics（世界陸上競技選手権大会）で昭和62年（1987年）の第2回ローマ大会で公式計時となって以降、現在に至るまで公式計時を14大会連続担当しており、ウサイン・ボルト選手（ジャマイカ）が100m走で9秒58の世界記録を出したときも、SEIKOの計時によってその記録が刻まれました。また、毎年2月に行われる東京マラソンにおいても、第1回大会からSEIKOが計時を担当しています。



【IAAF 世界陸上 2015 北京】

学校やあなたの身の回りにある「老舗」と言われる会社やお店には、
どのようなものがあるか調べてみましょう

何という企業・お店ですか	
どこにありますか	
いつ頃創業しましたか	
どのような業務ですか	

伝統の技術について学べる施設

セイコーミュージアム

【内 容】 セイコーミュージアム(旧セイコー時計資料館)は、昭和56年(1981年)に創業100周年記念事業として、「時と時計」に関する資料・標本の収集・保存と研究を目的として設立されました。時計の進化の歴史、和時計、セイコーの歴史・製品の展示、スポーツ時計体験コーナーやワークショップ(時計組立)などを通して、多くの方が楽しめる施設です。

【利用時間】 午前10時から午後4時まで
※ 入場受付は午後3時まで

【休 館 日】 月曜日(祝日の場合、翌火曜日も休館)、祝日、年末年始
※ 5月3日・4日・5日は開館

【場 所】 東京都墨田区東向島三丁目9番7号

【電 話】 03-3610-6248

【入 場 料】 無料

【交 通】 ・東武スカイツリーライン「東向島」駅 徒歩8分
・京成線「京成曳舟」駅(都営浅草線乗入れ) 徒歩15分又はバス7分
(日暮里駅行又は南千住東口行/ 明治通り→白鬚橋東下車)
・東京メトロ日比谷線「三ノ輪」駅 バス7分(亀戸駅行 / 三ノ輪二丁目→白鬚橋東下車)
・JR総武線「亀戸」駅バス15分(日暮里駅行又は南千住東口行 / 亀戸駅→白鬚橋東下車)

【ホームページ】 <http://museum.seiko.co.jp/>
※ 御来館の際には事前に御予約ください。



伝統・文化に関するイベント等

★ 都立中央図書館

○ 2020年に向けた展示「伝統・文化コーナー」

都立中央図書館では、1階中央ホールに伝統文化コーナーを設置し、日本の伝統文化や東京の魅力を伝える資料を展示しています。

【場所】 中央ホール(1階)

■常設ミニ展示「隅田川今昔—江戸・東京の水辺文化—」

【期間】 平成29年10月4日(水)まで

【内容】 隅田川は、東京を代表する川として古くから親しまれてきました。隅田川にまつわる歴史、文化、人々の暮らしを紹介します。

■テーマ展示「大相撲の歴史」

【期間】 平成29年10月4日(水)まで

【内容】 大相撲の歴史と文化について理解を深める資料を展示します。たくましい力士の雄姿とともに、伝統ある大相撲の世界をお楽しみください。

■テーマ展示「和食の彩」

【期間】 平成29年7月5日(水)まで

【内容】 和食は日本の伝統食であるとともに、平成25年ユネスコ無形文化遺産に登録され、世界の注目も集めています。和食の歴史や文化に関する資料を展示しています。



★ 東京都江戸東京博物館

○ 特別展「没後150年 坂本龍馬」

坂本龍馬は天保6年(1835年)に土佐で生まれ、慶応3年(1867年)に京都で亡くなりました。その間、浪士の立場ながら薩長同盟を仲介し、大政奉還を推進するなど、近代日本の創設に尽力しました。龍馬が亡くなってからおよそ150年。これを機会に改めて龍馬の人間的魅力を伝える展覧会を開催します。

本展では、龍馬の自由奔放な生き様や家族への愛情を表した直筆の手紙を中心に、その魅力を分かりやすく紹介します。また、龍馬が暗殺された際に携えていた愛刀「吉行」などの遺品や関連資料を合わせて展示し、龍馬が活躍した幕末という時代に迫ります。

【期間】 平成29年6月18日(日)まで

【場所】 東京都江戸東京博物館

【時間】 午前9時30分から午後5時30分まで(休館日:毎週月曜日)

土曜日は午後7時30分まで(入館は閉館の30分前まで)

【料金】 一般… 1,350円 大学生・専門学校生… 1,080円

中学生(都外)・高校生・65歳以上… 680円 小・中学生(都内)… 680円

【ホームページ】 <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】

- 株式会社 金剛組 <http://www.kongogumi.co.jp/>
- セイコーホールディングス株式会社 <http://www.seiko.co.jp/>
- セイコーウォッチ株式会社 <https://www.seiko-watch.co.jp/>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】 東京都教育庁指導部指導企画課
電 話 03-5320-6869
ファクシミリ 03-5388-1733